

B 91 ブラジャーの設計に関する基礎研究(第1報)―胸部の計測値について―
京都女大家政 ○藤田仁美 土井サキヨ 福井弥生 島山楢江
滋賀女短大 奥村董 大下学園女短大 田中麻佐子 山田家政短大 白石孝子

目的: 女性の体幹部前面の特徴は乳房部にあり、年齢や生活環境などにより著しく変化する部位である。これを整容するためには、適合性のよいブラジャーの設計が必要であると考え、身体計測を行ない、考察を試みた。

方法: 資料は1982年11月・12月に身体計測を行なった19才～60才代の成人女子174名の計測値である。計測項目は、ブラジャーの設計に必要と考えられる高径・横径・矢状径・周径・体高とさらに乳頭間幅・乳房の深さ・カップたけ・カップあたりなどの項目である。年代別特徴をとらえるために、19才・20才・30才・40才・50才・60才の各年代の6グループに区分して検討した。また乳房をブラジャーのJIS衣料サイズの種類に準拠し、カップサイズ別に分類し検討を行なった。

結果: (1) 年代別にみると、20才代と30才代間には右乳頭高・下部胸囲高・下部胸囲位矢状径・胸部矢状径・下部胸囲・乳房の深さ・カップたけ・肩中心～B.Pなどの項目に有意差がみられる。30才代と40才代間には、横径・矢状径・周径項目の諸項目および乳頭間幅・カップあたりなど多くの項目に有意差がみられ、この年代間は乳房の変化に加えて、体型の変化が大きいことが分かった。

(2) カップサイズ別にみると、カップサイズが大きくなるに従って乳房の深さやカップたけ・カップあたりは大きくなるが、上部胸囲や下部胸囲は必ずしも大きくなるとは限らない。このことから分かるように、乳房は体型には左右されない部分としてとらえる必要がある。